

Environmental Design Report 2026

みどり産業株式会社
環境デザイン・レポート



1-1 環境デザイン・レポートとは

環境デザイン・レポートとは、会社が「地域の環境を守るためにどんな目標を立てて、どのような活動をしてきたか」を、地域の方々や関係者の皆さまに分かりやすく伝える報告書である。具体的なデータや事実を公開することで、社会から安心と信頼を得る役割を持っている。

みどり産業では、野菜くずから堆肥“みどりのちから”

を作り、野菜“リベジ”を育てる『食品リサイクルループ』をはじめ、様々な資源のリサイクルに力を入れている。

このレポートは、SDGsへの貢献や、『100年企業』『75歳まで働ける会社』を目指して「ごみ」を宝物に変えるみどり産業の仕事が、社会にどう役立っているかを証明する大切なツールである。

1-2 レポートの目的

本環境デザイン・レポートは、みどり産業株式会社が日々の営業を通じ地域社会や環境にどのように影響を与えているかを振り返り、その結果を課題として整理し、今後の改善に繋げることを目的とする。みどり産業は、以下をコーポレートメッセージとして掲げている。

「Greenfuture～みどりを未来へ～」

廃棄物の再資源化に取り組むことで循環型社会の形成や、環境負荷の低減に貢献します。また、社訓である『社会貢献・お客様満足・社員満足』への取り組みについて継続的にチャレンジします。

環境デザイン・レポート本文では、みどり産業が掲げる理念に基づき“地域のことを考え、実行する”という姿勢のもと、『オールみどり産業』で取り組む環境配慮の活動を紹介します。また、リサイクル活動を通じた地域との繋がりや、そこから生まれるコミュニケーションがいかに地域貢献に繋がるかについても報告するものである。

1-3

トップメッセージ



代表取締役社長
津根頼行

会社が発信するレポートは、どうしても自社の「良いところ」ばかりを伝えてしまいがちです。

そこで今回は、次世代を担う大学生の皆さんに、みどり産業の取り組みを真っ直ぐな目線で評価しても

らうことにしました。私たちは50年間“循環型社会”を目指し、食品残渣を野菜に変える「リベジ」など、様々な挑戦を続けてきました。しかし、地域に愛される「100年企業」になるためには、自分たちの常識にとらわれない「変化と成長」が不可欠です。学生たちの付度のない意見や新しい気づきをもらうことにこそ、この環境デザインレポートの本当の意味があると考えています。

私たちは会社を「大きな家族」だと思っています。未来の子供たちに少しでも多くの緑を残すために、学生との対話から見てきた課題や希望を、これからの会社づくりにどう活かしていくのか。そんな私たちの「等身大の姿」をぜひこのレポートから感じていただき、皆様と一緒に未来を考えていただければ嬉しいです。

会社概要

本社所在地	千葉県市原市五井9093番地3
連絡先	代表 0436-22-2020
資本金	10,000,000円
設立	昭和52年10月4日
営業所	五井営業所車両基地(市原市能満2061-214) TEL 0436-37-2062 千葉営業所(千葉市緑区高田町2274-43) TEL 043-497-6161 成田支店(成田市川栗798-14) TEL 0476-35-6400
中間処理施設	千葉工場(廃プラスチック類・発泡スチロール処理施設) 五井工場(びん・缶・ペットボトル・蛍光管処理施設) 五井切断(混合廃棄物処理施設) 長柄工場(食品リサイクル施設)
関連会社	みどり工房株式会社(ケールや季節野菜の栽培)
一般廃棄物 処理業許認可	市原市・千葉市・八千代市・四街道市・佐倉市・袖ヶ浦市・成田市・富里市・酒々井町・大多喜町・いすみ市 長生郡市広域市町村圏組合(食品残渣、植物資源)の限定許可
産業廃棄物処理業許可	千葉県・東京都・埼玉県・神奈川県・茨城県・長野県
取引事業所数	約5,000事業所
年商	34億9千万円(令和7年度)
社員数	約230名(パート含む)
車両台数	約100台

社訓

1.社会貢献

当社は地域社会の資源循環を通じて「みどりを生み出す事業」を展開し、地域のごみゼロミッションへと常にチャレンジし続けます。

2.お客様満足

お客様のご要望に対して、迅速・誠実をモットーとし、安心して取り引きしていただけるよう、常に努力します。

3.社員満足

事業発展の最大の資産は「人」であることを認識し、会社と社員が共に成長できる環境を作り、一人ひとりが意欲を持って向上し、達成感を持てるような企業、誇りに思う職場を作り上げます。

行動基準 SACK

- S** ・全ての人たちのために「信頼される安心」を
- A** ・全ての人たちのために「+1行動」を
- C** ・全ての人たちのために「クリーンにクールな対応」を
- K** ・全ての人たちのために「ありがとう」を集める100年企業に

「環境(Environment)」とは、企業が事業活動によって地球環境に与える影響を考え、環境への負担を減らす取り組みを行っているかを示す考え方である。この章では、みどり産業が行っている環境問題に対する取り組みである『堆肥化・リベジ・リサイクル』の3つについて紹介する。

関連するSDGsゴール



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を

3-1 堆肥化

現在、日本では約464万トン※2023年度の食品ロスが発生している。みどり産業では、企業から排出される“野菜くず”年間約2600トンを堆肥として再資源化することで、循環型社会の実現に取り組んでいる。



堆肥はどのようにできるのだろうか。まず、ウッドチップや野菜くずなどの資源を攪拌し、微生物の力で発酵させる。発酵が進むと内部温度は約70度まで上昇する。発酵処理を終えたものは、土壌改良材として使用可能な堆肥になり様々なところで活用される。

堆肥が完成するまでの期間は60日間と長期に渡るが、作業の機械化により一人での運用が可能となった。そのため、作業の効率アップ、人件費削減に繋がった。

しかし、堆肥を作るプロセスにおいて、発酵処理に使用される“野菜くず”の中にプラスチックなどのごみが混ざっているという課題がある。これにより、本来再資源化できるものを不適合物として焼却・埋め立てしなければならない。そのため、ひとりひとりが適切に分別をすることが大事である。



3-2 リベジ

みどり産業が行っている環境に配慮した取り組みから生まれたオリジナルブランドが『リベジ』である。リベジとは環境に配慮した『食品リサイクル堆肥』をふんだんに使用して栽培した野菜ブランドのことである。これは、消費者の環境意識向上を高める役割も担っている。



『リベジ』の中でも代表的な野菜がソフトケールである。ケールは野菜の王様と言われるほど栄養価が高く、海外でも人気のスーパーフードである。その中でもソフトケールは生野菜で食しても苦みが少ないのが特徴である。これは、SDGsの開発目標3『全ての人に健康と福祉を』に当てはまる。

提供先には、学校給食(焼き菓子)やレストラン、ANAでの機内食、道の駅などが存在する。他にも、会社内での活動にも力を入れている。第4章で詳しく述べるが、みどり産業では社内向けの工場見学を実施しており、実際に社員が

“食品リサイクル”に触れる機会を提供している。また、このように生産されたソフトケールやカブ、ナスなどに加え、発酵施設のある長柄町で育てた“お米”を「リベジ米」として、社員に対して配布を行い、福利厚生を充実している。

また、この環境への取り組みを新入社員への教育の場として活用している。実際に、新入社員が行ったプロジェクト「市原高校×みどり産業」として、リベジのレシピと配布を行った。





3-3 リサイクル

みどり産業では、工場ごとに扱っている廃棄物が分かれていることが特徴である。千葉工場では、主に発泡スチロールと軟質プラスチックのリサイクルを行っている。これらの発泡スチロールは、新たなプラスチック資源として再生利用される。

五井工場は2023年に千葉工場より移設された新しい工場である。前工場はベルトコンベアを流れるびん缶ペットボトルを作業員の手で選別していた。現在はペッ

トボトルを自動で選別する風力選別装置を導入したことにより、作業員の選別作業は異物を除去する程度の軽作業となった。他にも重いものを運ばないためのシュートの製作や、作業者に負荷がかかりにくい体勢で作業をするための作業台等の導入を進めている。

このように、工場ごとの特徴を活かし、効率よくリサイクル業務を行っている。



一般的に、回収車両は“ごみ”の収集用と、リサイクル資源の収集用に分けられている。廃棄物は、混ぜてしまうと全て“ごみ”になってしまうため、車両を分けることは重要な役割を果たしている。廃棄物を“ごみ”ではなく資源として考える意識の高さが、みどり産業のリサイクル面を支えている。



Voices from A Key Person

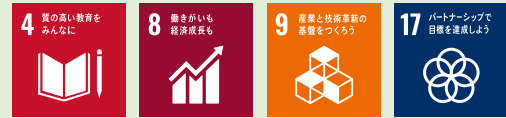
成田支店勤務 青木ドライバー



みどり産業に、16年間勤務しています。長期的に働いていると環境への意識が変化してくるため、燃料の消費量を減らすための意識や、フードロスの深刻さが気になるようになってきました。こういった意識の変化が生まれるのは、職場の状態が良いからであるとも感じています。

「社会とコミュニティ (Society and Community)」とは、企業活動が「外部」に及ぼす社会的・地域的影響と、それに対して企業が「社会の一員としてどう振る舞っているか」、「身近な人たちとどう関わっているか」という責任および貢献を示す領域である。

関連するSDGsゴール



4-1 工場見学の受け入れ・推進

廃棄物処理業は社会において必要不可欠な役割を果たしている一方で、その実態の不明瞭さが課題となっている。加えて、廃棄物がどのように処分、再生利用されているかについて、日常生活ではあまり意識されないことも課題である。

この課題に対応するため、みどり産業では、学生、各種団体や企業、一般市民等を対象に会社見学の受け入れを実施している。見学では、廃棄物の受け入れから分別、中

間処理、再資源化までの工程を実際の現場で説明している。各種資源のリサイクルや、野菜くずの堆肥化など、資源循環の仕組みを具体的に紹介している。また、“ごみ”を出さない工場見学を目指し、見学者が使用した手袋も再資源化している。

これらの見学を通じ、参加者は廃棄物が適正に処理されていることを実感し、みどり産業が地域の衛生や環境保全を支えるインフラ企業であることを体験できる。

4-2 学校教育への貢献(環境教育)

みどり産業では、学校への出前授業や子供から大人までが参加できる地域イベントを実施している。これらの取り組みでは、廃棄物の分別方法を学ぶだけでなく、分別の必要性、分別後の処理方法や再資源化について、実例を交えた説明を行なっている。また、ワークショップの開催により、参加者は分別の重要性を実感す



ることができ、日常生活とインフラとの繋がりを考えるきっかけを提供している。



4-3 工場同士のつながりとダイバーシティ

みどり産業では、様々な国籍の従業員と障がい者を積極的に雇用している。例えば、総従業員14人の五井工場では、7人が外国籍である。各工場では、従業員同士がお昼ご飯を一緒に食べたり、好きな音楽を流したりしながら業務に携わっている。国籍や年齢にかかわらず、明るい雰囲気働いている。そのため、誰でも意見を言いやす

く、会社からのサポートが手厚いこともあり、新しいことに挑戦できる環境が整っている。

また、一般の方だけではなく、社員向けにも定期的な工場見学をおこなっている。この社内見学ツアーにより、社員同士のつながりが強固になっている。

Voices from A Key Person

生産部 濱田係長



みどり産業では、入社時に資格を持っていない人でも、資格取得やキャリアアップを目指せるような支援を行っています。また、日本語に不安を持つ外国籍の従業員も、安心して資格取得を目指せる環境となっています。

4-4 みどり産業の「福利厚生」

みどり産業における「福利厚生」として、いくつかのユニークな取り組みがある。

1：「社員表彰制度」

毎年行われる方針説明会では、多角的な視点で評価し、表彰している。具体的には、優秀社員賞、取組目標達成賞、無事故ドライバー賞、永年勤続賞などがある。実際、みどり産業の本社オフィスには、様々な社員の功績をたたえる内容が掲示されていた。このような取り組みは、従業員のモチベーション向上に繋がると考える。「多様な貢献」の在り方についても可視化され、評価されることによって、社員ひとりひとりがロールモデルを見つけることにもつながる制度である。



2：「資格取得支援制度」

この制度は、会社業務に必要である資格を取得する際に、会社が従業員の代わりに費用を負担するものである。一例として運転免許の取得支援制度がある。みどり産業のドライバー職では中型免許や大型免許が必要になるため、入社時に未取得の場合は、この制度を利用し免許を取得することができる。資格取得支援制度は、みどり産業での業務に直接役立つだけでなく、社員ひとりひとりの長い目で見たキャリア形成にも繋がる。

3：「キャリア面談」

国家資格であるキャリアコンサルタント保有者が社内にて常駐しており、定期的なキャリア面談を行っている。面談の実施により、入社後における主体的なキャリア形成が可能である。個人の意思や意見を尊重し、それを組織運営に反映させる風土を醸成している。

4：「めぐるごほうび 米(マイ)ハッピー制度」

みどり産業では、自社の取り組みの一環である資源循環を、従業員ひとりひとりが実感できるように、食品リサイクル堆肥からできたリベジ米を毎月5kg配布している。(※労働時間が月120時間以上の従業員が対象)

この制度は、従業員に「75歳まで健康に働いてもらいたい」という、社長の思いも含まれている。



5：「奨学金返還支援制度」

この制度は、奨学金を企業が代理で返還する制度である。経済的側面からバックアップすることで、新社会人が自らの職務と成長に最大限注力できる環境を提供する。(※最大月2万円・最長5年間)

「ガバナンス (Governance)」とは、組織の目標達成と持続的発展のために統治・管理するしくみのことを意味する。この章では、みどり産業が社訓に掲げている『社会貢献』『お客様満足』『社員満足』の3つの柱を達成するために、どのように会社を運営しているのかについて紹介する。

関連するSDGsゴール



5-1 法令認可と認証

一般廃棄物、及び産業廃棄物を処理する施設には、下記のような市や県など各自治体からの許認可を証明する許可看板の設置が義務付けられている。この許認可を得るためには、多くの過程と時間が必要である。みどり産業では、長柄工場・千葉工場・五井工場・五井切断施設のすべてにおいて、千葉県知事または各市町村長か



ら正式な許認可を取得しており、法令に遵守した適切な廃棄物処理を行っている。

5-2 新人研修・SDGs研修などの各種勉強会

みどり産業の研修制度は、新入社員研修にとどまらず、既存社員に向けた研修も充実している。例えばSDGsに関する勉強会を開催することで社員一人一人の意識向上を図っている。他には、階層ごとに「塾」を開催しており、必要な知識・スキルを身に付けることができる。このように、みどり産業では継続的な学びの場を提供し、社員の成長と企業としての社会的責任の両立を目指している。



5-3 安全管理・品質管理

千葉工場・五井工場では、安全管理の徹底を行っている。特に近年はリチウム電池による火災が増えているため、AIカメラによる炎検知器等を設置し早期に感知できるようにしている。

長柄工場において、品質管理は最優先事項である。みどり産業が製造する堆肥は、食材を育む「土」そのものであり、最終的には自然の中へと還っていく。土壌改良

剤としての安全性を追求し、消費者の不安を払拭することが企業の責任である。原材料には、安全性が不透明な建築廃材ではなく、剪定枝から作られたウッドチップを用いている。また、自然環境に悪影響を及ぼすプラスチック等の混入を防ぐため、排出事業者と連携して分別の徹底を行っている。

SDGs Compass	指 標	2025年度評価	平均点
ステップ1 SDGsを理解する	①SDGsとは何か？	1.75	2.1
	②なぜSDGsに取り組むのが明確になっているか？	2	
	③みどり産業として、企業の基本的責任が把握されているか？	2.5	
ステップ2 優先課題を決定する	④事業活動の流れ全体でどこに影響があるか特定されているか？	1.875	1.8
	⑤指標等を活用してその優先度は明らかになっているか？	1.25	
	⑥SDGs17のゴールで自社が優先するゴールは決まっているか？	2.25	
ステップ3 目標を設定する	⑦SDGsの目標は設定されているか？それはどんな目標か？	2.25	2.2
	⑧何を基準とした目標？それは計測可能？どのくらい達成する？	1.625	
	⑨目標は「社会課題視点」になっているか？企業視点ではないか？	2.375	
	⑩目標や取り組みは社内外に公表し理解されているか？	2.375	
ステップ4 経営へ統合する	⑪SDGs目標が企業経営目標とつながっているか？売上・コスト削減等	2.25	2.4
	⑫一部の部門ではなく全社員の取り組みになっているか？	2.375	
	⑬外部企業や団体（協力会社・行政・教育機関など）とどのように協力しているか？相互にメリットはあるか？	2.5	
ステップ5 報告と コミュニケーションを行う	⑭SDGsの取り組みはどのように情報発信しているか？有効性は？今後の期待は？	1.875	1.9
	⑮情報発信の結果、得られる成果は何に期待するか？今後への期待は？	1.875	

Recommendations

7
政策提言と今後に向けて

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・ガバナンスゼミ2年(2025年度 研究演習 I-10)

提言1. オフィシャル通販サイトのさらなる活用

リベジのオンライン通販など、みどり産業が生み出したものを、より広い層に対して手に取りやすいものにしていく仕掛けを作る。このような取り組みを活用することで、みどり産業を知ってもらうことにもつながるのではないかと。

提言2. 環境インフラ産業(産業廃棄物の処理+αの価値を作る会社)と学校・地域(コミュニティ)をつなぐ連携プログラムのさらなる実施

具体的な活動として、【廃棄物を分別することの重要性+α(分別をしなかったら、何が起るのか)という点までを含めた、理解促進活動】を行う。

そのための実行手段として、以下4点を提案する。

- ① インパクトの強いポスター・チラシなどを作成する。
- ② ①について、地元の小学生または中学校にデザインを依頼する。
- ③ みどり産業主催「ごみ分別・ポスターコンテスト」を実施し、優秀賞受賞者には、工場見学+景品(長柄米やケール、リベジ詰め合わせなど)を贈る。
- ④ 現在行っているインターンシップだけでなく、児童・生徒向けに【収穫作業ボランティア】を企画し、作業量に応じたボランティア証明書を発行する。そのプロセスを通じて、「廃棄物処理からリベジにつながるまで」のアイデアについて知ってもらう。

提言3. 現場の人たちが、SDGsやビジョンとのつながりを意識できるような工夫

インタビューの中で、SDGsや会社のビジョンについて、上層部や管理部の方々はよく理解されている一方で、現場の方々との理解度にギャップがあった印象を受けた。そのため、さらなる活動として、以下2点を提案する。

- ① 【環境デザイン・レポート】を生かす
インタビューの中でも、「知らない間にできている」との声があった。せっかく作成しているのだから、しっかりと生かす。例えば、みどり産業の中で読み合わせる機会を作り、自己評価などを実行する。
- ② アンケート or クイズフォームで1か月に1回、自分の担当する仕事と、SDGsとの関連性についてのチェックを行う(社内研修の時に毎回やる)

提言4. みどり産業の様々なデータの「可視化」

今回のレポート制作の過程で、私たちがリクエストしたものの、入手困難またはデータ化されていない以下のものについて、数値化させる。

- ① 人事関連のデータ
育休・産休取得率、介護休暇取得率、女性社員比率及び管理職比率など
- ② 社会貢献度のデータ
再資源化率・リベジ生産量・CO₂削減率など

神田外語大学生と木更津総合高等学校生にて、次の4つのテーマで話し合ってもらいました

テーマ：世代を超えて語る千葉の課題と未来の展望

- 1：千葉県の現状と課題
- 2：10年後(2035年)の未来はどうか
- 3：環境貢献と企業の在り方
- 4：大学生から高校生へのアドバイス



1：千葉県の現状と課題

高校生：千葉県って、住む場所によって環境が全然違いますよね。都市部だと電車が1時間に20本近くあるのに、私の地元は1時間に1本、ひどいと2時間に1本しかなくて、運賃も4駅で500円もするんです。あとは、駅周辺のポイ捨てや治安の悪さも気になります。

大学生：確かに、インフラや教育環境の「南北の格差」が激しいよね。でも、東京へのアクセスが良いのに、都心(山手線沿線など)と比べて家賃が6万円程度で安いという、住みやすさのメリットもあるんだよ。

高校生：なるほど。普段の通学の「運賃が高い」「不便だ」という単なる不満も、県全体の人口の偏りや、都市部と地方部という構造的な「地域格差」として俯瞰すると、見え方が大きく変わりますね。

2：10年後(2035年)の未来はどうか

高校生：10年後は高齢者が人口の3分の1になって、消費税が20%に上がるんじゃないかっていう将来の負担がすごく不安です。それに、「先生の仕事までAIに奪われちゃうんじゃないか」という怖さもあります。でも、アニメに出てくるようなARメガネや空飛ぶ車が現実になりそうなのは楽し

みです。

大学生: AIについては「仕事を奪われる」と恐れるんじゃないで、「働き方が変わる」って考えた方がいいよ。例えば、美容師さんがAIをパートナーとして使ってカウンセリングに役立てたり、企業が方針決定に生成AIを使い始めているように、人間をサポートする使い方が増えていくはずだよ。

高校生: AIは敵じゃなくてパートナーなんですね！仕事が単になくなるわけじゃなくて、人間とAIが共存して仕事の中身が変わっていくんだって気づくと、未来の変化に適応していくのが少し前向きに捉えられそうです。

3:環境貢献と企業の在り方

大学生: 今後は、環境に配慮する企業がスタンダードになって、取り組まない企業は淘汰されると思う。でも、環境に優しいフリをする「SDGsウォッシュ(見せかけ)」みたいな企業も増える懸念があるんだ。

高校生: 私は、環境貢献ってすごくお金がかかるから、中小企業だと資金や人員に余裕がなくてできないんじゃないかなって思います。世の中には、利益第一で「金だ金だ」と環境対策を軽視するトップの人もいるかもしれないし…。

大学生: 鋭いね！だからこそ、本当に貢献しているかを見抜くための「SBT認証」などの認証制度や、取り組む企業に対して国が助成金や減税などの「インセンティブ(ご褒美)」を与える仕組みが必要になるんだよ。

高校生: 「環境に良い企業が伸びる」という理想を語るだけでなく、認証制度やインセンティブといった『社会システム』が整って初めて、企業も現実的に動けるんですね。理想と現実のギャップを埋める方法があることに気づきました。

4:大学生から高校生へのアドバイス

高校生: 大学に行きたい気持ちはあるんですが、学費が高いので躊躇してしまいます。出費が大きすぎる感じがして…。

大学生: 大学の4年間は「人生の夏休み」とも言える、多様な出会いややりたいことを見つけるための、二度と戻らない投資期間だよ。お金が心配なら、給付型の奨学金や、英語の資格を取れば学費が免除になる制度などを自分でしっかり調べてみて。お金を理由に自分の可能性を狭めないでほしいな。ちなみに、高校の時の友達是一生の付き合いになって相談にも乗ってくれるから、大切にしてね。

高校生: 高い学費を「ただの大きな出費」だと思っていましたが、自分への「貴重な経験への投資」なんですね！具体的な制度の調べ方も教えてもらったので、お金を理由に諦めず、もっと希望を持って進学を考えたいと思います。

本ワークショップは、高校生にとって社会のリアルな仕組みや未来の働き方、大学進学の実の価値を学ぶ貴重な機会となりました。同時に大学生にとっても、自らの学びや見識を言語化し、次世代の率直な疑問に応えることで思考を整理する場となりました。対話を通じて「現状への不満や不安」を「社会への提案や自己成長の糧」へと昇華させたことは、参加者全員にとって大きな財産となるはずです。

「地球市民」として、わたしたちが地球のためにできること

神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部 准教授
グローバル・ガバナンスゼミ担当
高橋 麻奈

「グローバル・ガバナンス」とは、気候変動など地球規模で発生している諸課題に対して、国際機関、政府、企業、市民社会などが協力し、解決を目指す仕組みについて考える学問分野です。私たちのゼミでは、グローバルレベルの諸課題に関心のある学生が集まっており、日々この地球で何が起きているのかについて考え、議論しています。

本プロジェクトに参画させていただく機会は、学生たちにとって、とても挑戦的な経験でした。みどり産業様の「環境デザインレポート」の制作のプロセスを通じて、私たちの日常生活がどのようにして「地球」環境と結びついているのかとい

うことを多様な側面から学ぶことができました。私たちが出している様々な廃棄物やごみがどのように取り扱われ、資源として生かされていくのか。その過程における課題は何か。このような観点から得られた気付きは、私たち一人一人が、この地球の構成要員であるということ意識することにつながったと思います。本レポートが、みどり産業様が千葉県から生み出している取り組みと地球環境との結びつきについて知る一助になってほしいと願っております。

みどり産業株式会社 環境デザイン・レポート

執筆者：神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・ガバナンスゼミ 2年（2025年度 研究演習 I-10）

猪俣夢太、大木帆菜、太田勝麻、大場麻央、木崎将宏、佐藤菜央、松澤菜々子、辺見莉緒

監修：高橋麻奈（神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部准教授）

協力：木更津総合高等学校

編集：みどり産業株式会社